

「少年の日の思い出」・1年生

2025年1月17日 **1年**

1年生が、国語科の授業でヘルマン・ヘッセの「少年の日の思い出」という作品の読解をすすめています。生徒たちは、タブレットを開き、この文章の中から「心情を読み取った描写」を抜き書きし、その時の自分の「心情」を言葉と数字で記録します。その記入が終わると、自分の心情が「グラフ」で処理されて表示されます。このグラフ作成が自動で行われるため、担当者からは、「グラフ」の書き方の指導がなくなり、グラフの訂正作業もなくなったので、より文章に添った読み取りの時間が確保できるようになったとの感想を聞きました。授業の目的を達成する手段としてとても有効のようです。





		打ち込んでしまい、			裏に夢中になり、楽しんでいる。
201	14	その緊張と歓喜といったなかった。	4.5		興味のなかった様にすごく魅力を感じ、興奮している。
201	14, 15	微妙な喜びと、悲しい欲望の入り混じった気持ち	4.7		今まで感じたことのない、これからも感じられないほどの不思議な気持ち。
202	4, 5	自分の収束を喜んでたびたび仲間に見せたが、	4.5		今までの白痴のコレクションを仲間に見せたい。
202	8, 9	自分の幼稚な放言を自慢することなんかできなかった。	2.7		自分だけ思っているような気がして、少しショックな気持ち。劣等感。
202	10~13	最大で、評判になるような発言や行動があっても、ないしよに。自分の嫌なところだけに見せる習慣になった。	2.5		本当は誇りに岡山自慢したいのに、放言のせいで見せられないことが辛い。
202	13~15	僕らのところでは珍しい、青いコムラサキをどらえた。			
202	16, 17	せめて隣の子供だけには見せよう			
		その珍しいことを認め			
		二十ペニシぐらいの現金の優待はある、と確認した。			

